

平成29年度  
藤枝市教育委員会事業評価報告書

平成29年11月  
藤枝市教育委員会

－ 目 次 －

|                                 |      |
|---------------------------------|------|
| 事業評価の趣旨 .....                   | P 1  |
| 平成29年度事業評価 .....                | P 1  |
| 藤枝市子ども未来応援会議 教育委員会事業評価部会員名簿 ... | P 2  |
| 事業評価対象事業一覧 .....                | P 3  |
| 各事業の評価報告 .....                  | P 4  |
| 教育委員の活動状況報告 .....               | P 16 |

## 1 事業評価の趣旨

教育委員会は、「地方教育行政の組織及び運営に関する法律」の規定に基づき、自らが実施する事務事業が効果的かつ着実に執行されているかどうかについて点検・評価を行い、P D C Aサイクルを確立することにより、事務事業のさらなる充実を図ります。

### 【地方教育行政の組織及び運営に関する法律】（抜粋）

第二十六条 教育委員会は、毎年、その権限に属する事務（・・・中略・・・）の管理及び執行の状況について点検及び評価を行い、その結果に関する報告書を作成し、これを議会に提出するとともに、公表しなければならない。

2 教育委員会は、前項の点検及び評価を行うに当たっては、教育に関し学識経験を有する者の知見の活用を図るものとする。

## 2 平成29年度事業評価

市が平成28年度の主要事業として位置付け、教育委員会が実施した11事業について、教育環境の充実を総合的に推進することを目的に各方面の有識者からなる「藤枝市子ども未来応援会議」に「教育委員会事業評価部会」を設け、必要性、有効性等の観点から事業評価を実施しました。

### 事業評価部会

実施日：平成29年8月2日（水）

場 所：藤枝市役所特別会議室

藤枝市子ども未来応援会議 教育委員会事業評価部会

敬称略

|     | 氏名     | 所属団体等       |
|-----|--------|-------------|
| 部会長 | 松永 由弥子 | 静岡産業大学 准教授  |
| 委員  | 鈴木 和裕  | 県立藤枝特別支援学校長 |
| 委員  | 清水 和義  | 清水園芸代表      |
| 委員  | 野口 あゆみ | PTA連絡協議会    |
| 委員  | 牧田 伸明  | 校長会         |

## 平成28年度 主要事業

| No. | 事業名                             | 担当課   |
|-----|---------------------------------|-------|
| 1   | ふじえだロボットアカデミー開催                 | 教育政策課 |
| 2   | 小中一貫教育の導入推進                     | 〃     |
| 3   | 小中学校連携ドリームプラン事業                 | 〃     |
| 4   | 小学校トイレ洋式化の推進                    | 〃     |
| 5   | 特別支援教育の充実                       | 〃     |
| 6   | ふじえだ教師塾の充実                      | 〃     |
| 7   | 英語に親しむ Fujieda English Camp の開催 | 〃     |
| 8   | オリジナル学校給食メニューの開発                | 学校給食課 |
| 9   | サイエンスキッズの育成                     | 生涯学習課 |
| 10  | 地域の文化財を活用した科学教育の推進              | 〃     |
| 11  | 子ども読書活動推進事業                     | 図書課   |

## 各事業の評価報告

|           |  |          |      |         |          |   |
|-----------|--|----------|------|---------|----------|---|
| 事業名       | ふじえだロボットアカデミー開催  |          | 所管課名 | 教育政策課   | 事業No.    | 1 |
| 事業の概要及び目的 | 豊かな教養と幅広い視野を持つ、輝く次世代人材の育成に資するため、市内の小中学生に科学技術等の多様な学習機会を提供し、科学やものづくりに関心を持つ子どもの育成を推進した。ロボットづくりを通して、子どもたちが自ら創意工夫することや失敗を乗り越えていくことで創造力や問題解決力を身に付けるため、ロボットアカデミー事業を実施した。  |          |      |         |          |   |
| 事業費       | H28 決算   | 2,583 千円 | 財源内訳 | [市費]    | 290 千円   |   |
|           |  |          |      | [国県補助金] | 2,293 千円 |   |
| 事業内容      | <p>&lt;ロボコン対策集中講座&gt; (中学1～3年生を対象) 全8回</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・開催日：8/5、8/19、9/2、9/16、9/30、10/14、10/21、10/28</li> <li>・受講者：21人 (うち女子2人)</li> <li>・内 容：「全国中学生創造ものづくり教育フェア静岡県予選大会 (11/19)」への出場を目標に精度の高いロボット製作を行い、17チームが参加し決勝トーナメントに8チームが進出。活用部門優勝の藤枝中チームと3位の岡部中チームが金沢で開催された東海北陸大会に出場した。</li> </ul> <p>&lt;ロボットづくり講座&gt; 夏 (小学5～中学3年生対象)、冬 (小学3～6年生対象) 各2回</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・開催日：夏の部：8/20、9/3 冬の部：2/4、2/18</li> <li>・受講者：夏74人 (小学生63人、中学生11人)、冬208人</li> <li>・内 容：夏：空缶を持ちあげる簡単なロボット製作 冬：2時間程度で製作し動かせるモーター駆動力を用いた簡単なロボットづくりの各体験講座を実施した。</li> </ul> <p>&lt;エネルギー利用技術作品コンテスト対策講座&gt; (小学4～中学3年生を対象) 全4回</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・開催日：6/25、7/16、7/31、8/6</li> <li>・受講者：30人 出品者12人 1次審査通過5人</li> <li>・内 容：太陽光、磁力、振動等の自然エネルギーを利用した技術作品づくりを行い、「技術教育創造の世界「エネルギー利用」技術作品コンテスト」への出品参加を支援し、5作品が優秀な成績を収め、新潟県上越市で行われた表彰式で学会から表彰された。また、科学技術教育の功績から市教委が指導功労賞を受賞した。</li> </ul> |          |      |         |          |   |
| 成 果       | ロボットづくりを通して、より高精度な動作を求め、試行錯誤を繰り返すことで、子どもたちの創造力や問題解決能力の涵養が図られた。また、子どもたちに理科や科学への興味・関心を持たせるきっかけづくりや支援ができたとともに、自分の将来を考えるキャリア教育にもつなげることができた。  |          |      |         |          |   |
| 今後の方向性    | どちらも「科学」をテーマにした事業だが、事業9「サイエンスキッズの育成」は体感イベントが中心で、対象年齢の間口が広い一方、本事業はより創造力や問題解決力の高まりに視点を置く、小中学生が対象の講座が中心である。平成29年度以降も講座内容を精査しながら継続実施していく。  |          |      |         |          |   |

| 事業評価部会による評価 |   |
|-------------|---|
| 必要性         | これからの時代に子どもたちが生き抜く糧になる事業であり、十分必要性が感じられる。  |
| 有効性         | 科学に興味を持たせるという目的はもちろんのこと、スポーツで輝く子ども以外にも光を当てられる、多様性に富んだ事業であり有効性は高い。                 |
|             | 事業9のサイエンスキッズも「科学」がテーマであり、似たような事業が並んでいる印象があり、外部からは分かりにくい。きちんと差別化を図り発信していく方が効果的である。 |
| 公平性         | 対象の全児童・生徒にチラシ配布などで周知はしているものの、講座受講生という限られた人のみに費用が使われる。全体の底上げという視点もほしい。             |

|           |   |          |      |         |          |   |
|-----------|---|----------|------|---------|----------|---|
| 事業名       | 小中一貫教育の導入推進   |          | 所管課名 | 教育政策課   | 事業No.    | 2 |
| 事業の概要及び目的 | 子どもたちが未来を生き抜く力となる確かな学力や社会性、道徳性を身に付けることを目的とし、本市にあった連続した9年間で実効性と系統性ある小中一貫教育の導入を推進した。特に瀬戸谷地区をモデル地区として、小中一貫教育のあり方を協議し、平成29年度からの導入を目指した。   |          |      |         |          |   |
| 事業費       | H28 決算  | 3,394 千円 | 財源内訳 | [市費]    | 220 千円   |   |
|           |   |          |      | [国県補助金] | 3,174 千円 |   |
| 事業内容      | <p>&lt;藤枝市小中一貫教育推進計画の策定&gt;</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・藤枝市小中一貫教育推進協議会を5回(6/13、7/26、8/22、11/9、2/2)開催、同検討委員会(検討部会)を5回(6/7、7/19、8/19、10/27、1/26)開催し、12/20~1/20のパブリックコメントの実施を経て計画策定した。</li> <li>・新学習指導要領を見据えた英語教育やICTプログラミング教育の充実や小学校一部教科担任制の導入など、小中9年間を見通した教育を推進し、中1ギャップなど指導上の課題解決を図る内容とした。</li> </ul> <p>&lt;瀬戸谷地区小中一貫教育推進計画の策定&gt;</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・瀬戸谷地区では他地区に先行して平成29年度からの小中一貫教育の導入を目指し、地区小中一貫教育推進協議会を6回(6/21、7/15、8/3、10/6、11/15、2/23)開催し、計画の策定とともに、実施に向けた具体運営の協議を進めた。</li> </ul> |          |      |         |          |   |
| 成果        | 新学習指導要領を見据えた教育施策や小学校高学年から中学校へのスムーズな移行を考慮した手法など関係者から意見をいただき、小中一貫教育を市内で推進するための指針となる計画を策定した。   |          |      |         |          |   |
| 今後の方向性    | 今年度以降、先行実施する瀬戸谷地区の実践を検証しながら、各中学校区単位で推進協議会を立上げ、小中一貫教育の導入を前提とした地域課題等を協議し地区計画を策定していく。  |          |      |         |          |   |

| 事業評価部会による評価 |  |
|-------------|--|
| 必要性         | 単なる構造改革ではない小中一貫教育は、今の時代に求められるスタイルで、子どもの成長のため必要な手段である。            |
|             | 「小中一貫教育」というと施設一体型のイメージが強い。市民への周知をしているとは思いますが、もっと力を入れる必要がある。      |
| 有効性         | 中学校教員の小学校への乗り入れ授業や、小学5・6年生の中学校での生活を通じ、学力面・精神面で大きな効果が見込まれ、有効性がある。 |
|             | 事業3の「小中連携」と「小中一貫」とは何が違うのか、違いをはっきりさせないと、有効性が市民へ伝わりにくい。            |
| 公平性         | 小規模校や大規模校・複数校区を、画一的でなく、独自性を認めながら進めていく必要がある。                      |



| 事業名                                   | 小中学校連携ドリームプラン事業   |                                   | 所管課名                                 | 教育政策課        | 事業 No.   | 3 |
|---------------------------------------|---|-----------------------------------|--------------------------------------|--------------|----------|---|
| 事業の概要及び目的                             | 中学校区ごとに小中学校で設置した実行委員会が、子どもの9年間の育ちに視点を置いた教育活動を研究・実践するための事業費や、本物に触れる機会や体験としてのドリーム講演会の開催（300千円）、また、本市が推進する小中一貫教育の実施に向けた研究・視察等の取組（各校50千円）についての事業費を交付した。 |                                   |                                      |              |          |   |
| 事業費                                   | H28 決算  | 5,077 千円                          | 財源内訳                                 | 〔市費〕         | 5,077 千円 |   |
|                                       |   |                                   |                                      | 〔国県補助金〕      | 千円       |   |
| 事業内容                                  | 校区  | 主要内容                              | 取組内容                                 | 小中一貫 交付額（千円） |          |   |
|                                       | 藤 枝   | 子どもの育ちを9カ年で捉えた児童・生徒理解の推進          | 小中教員による児童・生徒理解に基づいた指導方法の研修・実践(KJQ活用) | 先進校視察        | 630      |   |
|                                       | 西益津   | 小中が連携した歌唱指導                       | 小中連携「歌おう集会」や歌手の歌唱指導で、「素敵な歌声」を発信・自慢する | 先進校視察        | 450      |   |
|                                       | 青 島   | 9年間を見通したキャリア教育を構築                 | 中学生「リアル職業調べ」等によるキャリア教育の推進            | 先進校視察        | 440      |   |
|                                       | 葉 梨   | 自信を持って学習に立ち向かえる子どもの育成             | 小中連携して行う、学習習慣づくり及び授業のユニバーサルデザイン化     | 先進校視察        | 750      |   |
|                                       |   | ★ドリーム講演会の開催                       | 時間管理能力の視点からキャリア教育につなげる講演会 星野けいこ氏     |              |          |   |
|                                       | 高 洲   | 「高洲すこやか3ヶ条」に取組み、望ましい生活習慣を確立       | ノーマディア活動や幼小中授業参観交流                   | 先進校視察        | 450      |   |
|                                       | 大 洲   | 道徳教育と「大洲すくすく3ヶ条」の推進               | 小中合同講演会の実施や「生きる力」育成のための総合的な学習の実施     | 先進校視察        | 355      |   |
|                                       | 瀬戸谷   | 文化、芸術等の講演を通して、小中学生が共に情操を深める       | 小中合同体育祭や小中合同講演会の実施                   | 小中合同体育祭      | 367      |   |
|                                       | 広 幡   | 「自分を表現することが心地よい」体験を通して、表現できる子の育成  | 表現を楽しむ会や、ダンス発表会等の表現できる場の工夫           | 先進校視察        | 415      |   |
|                                       | 青島北   | 子どもが自分で表現する事の良さを実感し、生き生きと輝く表現力の育成 | 各小中学校で「表現力」を高めるワークショップの実施            | 先進校視察        | 450      |   |
| 岡 部                                   | 「考え つなげ 深める」21世紀型能力の育成を研究   | 合同研修を核に言語力の育成を図り、交流する場面の活性化を研究    | 先進校視察                                | 770          |          |   |
|                                       | ★ドリーム講演会の開催   | 夢をもち挑戦することの大切さ講演会 栗城史多氏（登山家）      |                                      |              |          |   |
| ※交付額：ドリーム講演会 300千円、小中一貫教育研究費小中各校 50千円 |   |                                   |                                      |              |          |   |
| 成 果                                   | 各小中学校の教員が、中学校区で目指す子どもの姿を共有し、同じ視点に立って教育活動ができるようになった。また、子どもが本物にふれる活動や講演会、異年齢交流が活発に行われた。加えて、教員に対する小中一貫教育の推進についての意識付けにもなった。                             |                                   |                                      |              |          |   |
| 今後の方向性                                | 各中学校区における小中の連携やつながりをより強くし、小中一貫教育の導入を目指す上でも重要な施策であると考え、継続実施していく。   |                                   |                                      |              |          |   |

| 事業評価部会による評価 |   |
|-------------|---|
| 必要性         | 中学校区単位で、目指す子ども像を共有することは、小中一貫教育に向けた素地となり、将来に向けて必要な事業といえる。                |
| 有効性         | 同じ地域で目指す子ども像を統一することは、小中9年間で系統的に地域の特色を活かした教育ができ、子どもにとっても教師にとっても非常に有効である。 |
|             | 事業2の「小中連携」と「小中一貫」とは何が違うのか、違いをはっきりさせないと、事業の有効性が市民へ伝わりにくい。                |
|             | 校区の特性に合ったプランを考えているというが、本当にそれが地区の子どもにマッチし、有効性があるかを再度検証すべきである。            |
| 公平性         | 中学校区単位で学ぶ・体験することが違うものの、平等に与えられた機会の中でそれぞれの校区の特色を活かし、小中で取り組む本事業は公平性がある。   |

|           |   |           |      |         |           |   |
|-----------|---|-----------|------|---------|-----------|---|
| 事業名       | 小学校トイレ洋式化の推進  |           | 所管課名 | 教育政策課   | 事業No.     | 4 |
| 事業の概要及び目的 | 児童生徒の学校生活の環境改善を図るため、学校トイレを和式から洋式便器への更新を推進した。特に小学校1年生用のトイレを最優先して計画的に洋式化を進め、子どもに親しまれる衛生的なトイレ環境づくりを図った。  |           |      |         |           |   |
| 事業費       | H28 決算  | 23,642 千円 | 財源内訳 | [市費]    | 12,477 千円 |   |
|           |   |           |      | [国県補助金] | 3,365 千円  |   |
|           |   |           |      | [起債]    | 7,800 千円  |   |
| 事業内容      | <p>&lt;設計業務委託1&gt;<br/> 概要：本年度実施4校のトイレ洋式化等改修工事設計業務<br/> 工期：平成28年4月20日～6月8日</p> <p>&lt;設計業務委託2&gt;<br/> 概要：平成29年度実施予定6校のトイレ洋式化等改修工事設計業務<br/> 工期：平成29年1月17日～3月21日</p> <p>&lt;改修工事&gt;<br/> 実施校：4校（藤枝小、青島小、高洲小、大洲小）の1年生用トイレ<br/> 概要：4校計22箇所の便器更新（内和式からの更新は17基）<br/> 床の乾式化、トイレブース、小便器の更新、その他内装改修を実施<br/> 工期：平成28年8月4日～9月30日</p> |           |      |         |           |   |
| 成果        | <ul style="list-style-type: none"> <li>・利便性の向上とともに、従来の「暗い・汚い・臭い」といったイメージが払拭され、明るく清潔なトイレ環境に改善された。児童にも好評であった。</li> <li>・次年度に向けて、積極的に特定財源の確保に努めるとともに、設計業務の前倒し実施のため、静岡県教育委員会、財政部局との調整を進めた。</li> </ul>   |           |      |         |           |   |
| 今後の方向性    | 当初の計画から1年前倒し、平成30年度までに小学校1年生用トイレの洋式化の完了を目指す。その後、順次、小学校1年生以外のトイレも洋式化を進める。  |           |      |         |           |   |

| 事業評価部会による評価 |  |
|-------------|--|
| 必要性         | 「最近の子どもが和式トイレに慣れていないから」という理由だけでなく、車いすや松葉づえをつく人も使用しやすいユニバーサルな環境をつくることが重要であり必要な整備である。                      |
| 有効性         | トイレを我慢する子どもが減り、健康面で効果があることは言うまでもない。<br>便器だけでなく、床や壁などトイレ全体がきれいになったことで、物を大切に使うという子どもたちの意識が芽生えたことも大きな効果である。 |
| 公平性         | 小学1年生のトイレの改修は来年度で終了するということだが、他の学年や中学校についても進めてほしい。  |

| 事業名       | 特別支援教育の充実   |           | 所管課名    | 教育政策課   | 事業No.     | 5  |  |        |        |  |        |      |      |         |      |     |     |        |
|-----------|---|-----------|---------|---------|-----------|----|--|--------|--------|--|--------|------|------|---------|------|-----|-----|--------|
| 事業の概要及び目的 | <p>&lt;特別支援学級支援員の増員&gt;<br/>市内小中学校の児童・生徒の適正就学を推進するため、特別な支援を必要とする児童・生徒に対し、さらにきめ細やかな指導体制とするため、特別支援学級支援員を増員した。</p> <p>&lt;特別支援教育巡回相談員の充実&gt;</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>特別支援教育巡回相談員が各学校を巡回し、対象児の行動観察、学校職員や保護者への指導助言を行うことで、対象児における支援の充実を図るとともに、特別な支援を必要とする児童生徒への対応に関する教職員の指導を充実させた。</li> <li>中学校区を単位とし、巡回相談員担当校を配置。(小・中の連携の充実)<br/>巡回相談員4人で市内27校の巡回訪問を行った。</li> </ul>   |           |         |         |           |    |  |        |        |  |        |      |      |         |      |     |     |        |
| 事業費       | H28 決算  | 27,615 千円 | 財源内訳    | [市費]    | 27,615 千円 |    |  |        |        |  |        |      |      |         |      |     |     |        |
|           |   |           |         | [国県補助金] |           | 千円 |  |        |        |  |        |      |      |         |      |     |     |        |
| 事業内容      | <p>&lt;特別支援学級支援員の増員&gt;</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>特別支援学級設置校・・・小学校10校 中学校7校<br/>うち小学校5校5学級、中学校1校1学級を28年度に拡充</li> <li>特別支援学級の児童生徒数、支援員数</li> </ul> <table border="1"> <thead> <tr> <th></th> <th>平成27年度</th> <th>平成28年度</th> <th></th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>児童・生徒数</td> <td>223人</td> <td>234人</td> <td>(11人増加)</td> </tr> <tr> <td>支援員数</td> <td>20人</td> <td>22人</td> <td>(2人増員)</td> </tr> </tbody> </table> <p>&lt;特別支援教育巡回相談員の充実&gt;</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>小学校…巡回実施回数：82回 実施時間数：556時間<br/>行動観察児童生徒 延べ人数：203人</li> <li>中学校…巡回実施回数：49回 実施時間数：319時間<br/>行動観察児童生徒 延べ人数：120人</li> </ul>            |           |         |         |           |    |  | 平成27年度 | 平成28年度 |  | 児童・生徒数 | 223人 | 234人 | (11人増加) | 支援員数 | 20人 | 22人 | (2人増員) |
|           | 平成27年度  | 平成28年度    |         |         |           |    |  |        |        |  |        |      |      |         |      |     |     |        |
| 児童・生徒数    | 223人  | 234人      | (11人増加) |         |           |    |  |        |        |  |        |      |      |         |      |     |     |        |
| 支援員数      | 20人   | 22人       | (2人増員)  |         |           |    |  |        |        |  |        |      |      |         |      |     |     |        |
| 成果        | <p>&lt;特別支援学級支援員の増員&gt;</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>支援員の増員により対象児童・生徒への個に応じたきめ細やかな支援がさらに可能となった。</li> <li>各学校や保護者から、個々に特性が異なる児童・生徒への対応に支援員の存在は非常に大きいと、支援員の必要性や期待の声が多届けられている。</li> <li>巡回相談員による指導助言により、在籍学級にうまく適応できない子や、学習面での困り感を抱えた子への支援方法を学校・学年で共有することができた。</li> <li>特別支援に係る児童生徒について、学校と保護者をつなぐ役割を担うことができ、適正就学へ向けての話し合いが円滑に進むケースが見られた。</li> </ul> <p>&lt;特別支援教育巡回相談員の充実&gt;</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>巡回相談員による校内支援により、学校における合理的配慮や授業や教室のユニバーサルデザイン化に対する意識が広がった。</li> <li>ケース会議に同席し、対象児の支援方法に対するアドバイスをを行った。それにより、個々の子どもが安定し、少しずつ落ち着いた学びができるようになってきている。また、小中移行支援の橋渡しを行ったことで、学校間で情報共有ができ、対象児の適切な支援に繋がっている。</li> </ul> |           |         |         |           |    |  |        |        |  |        |      |      |         |      |     |     |        |
| 今後の方向性    | <ul style="list-style-type: none"> <li>個々の特性に応じた支援対応の充実を進めていくために、実態を把握しながら、さらなる特別支援学級支援員の適正配置を進めていく。</li> <li>巡回相談が特別支援教育の推進に役立っているという声が多く、学校側のニーズが高いため、継続して同様の取り組みを行っていく。</li> </ul>   |           |         |         |           |    |  |        |        |  |        |      |      |         |      |     |     |        |

| 事業評価部会による評価 |  |
|-------------|--|
| 必要性         | 少しのアドバイスが子どもの成長を伸ばすことができる。誰もが同じように教育を受けられるよう、子どもたちの将来のためぜひ進めてほしい。  |
| 有効性         | 子どもの特性は人それぞれで、個々の特性にあった方法で手を差し伸べることでできることもあり、子ども一人ひとりに目を行き渡らせる支援員を配置するのは非常に有効である。<br>大勢の中では我慢してじっとしてしまいでないことがある子どもも、少人数であれば自ら取り組むことができる。人を育てるのはやはり人。有効性が感じられる事業であり、十分人員を配置してほしい。 |
| 公平性         | 誰もが等しく、のびのびと教育を受けられるために重要な事業であり、今後もぜひ継続して進めてほしい。   |

| 事業名       | ふじえだ教師塾の充実  |          | 所管課名 | 教育政策課   | 事業No.    | 6 |
|-----------|---|----------|------|---------|----------|---|
| 事業の概要及び目的 | <p>教職を志す人に、人を育てるといふ職業のすばらしさと大切さを伝え、教職に就くことの誇りと気概を育てるとともに、現職の教員の中で、若手や中堅の教員に対して、藤枝市がめざす教育理念や授業づくりについて理解を深め、授業力や学級経営力を高めた。</p> <p>&lt;対象者&gt; ① 大学生（前・後期） 50人<br/>           ② 講師・社会人（通年） 48人<br/>           ③ 教職2・3年目若手教員（通年） 39人<br/>           ④ 中堅（30代）教員（通年） 13人 計150人</p>           |          |      |         |          |   |
| 事業費       | H28 決算  | 3,722 千円 | 財源内訳 | [市費]    | 3,722 千円 |   |
|           |   |          |      | [国県補助金] | 千円       |   |
| 事業内容      | <p>&lt;講座内容の更なる充実&gt;・・・現職教員の講師招聘、現職校長等の面接指導増、指導員の1人増員、グループワークの形態や、個別支援の充実など</p> <p>&lt;大学生・院生へ現場に近い研修実践&gt;・・・学校での授業参観、研究発表会への参加等を講座内容に組み込むなど</p> <p>&lt;臨時講師が学級経営に新たな意欲&gt;・・・授業作りや学級経営上の悩みや課題をテーマに協議・指導を実施</p> <p>・臨時講師・若手教員を対象とした年2～3回の訪問指導の1年間の成果と課題を塾生と指導員で明らかにし、次年度につなげていった。</p> |          |      |         |          |   |
| 成果        | <p>・大学生・臨時講師等、採用試験を受験する塾生に対し8回の教職演習、面接指導等を実施<br/>           ⇒ 受講生の合格率45.1%（71人受験のうち、合格者32人）<br/>           ※県合格率26.1%を大きく上回る結果</p> <p>・臨時講師や若手教員が教師塾での学びを学校や子どもたちへ還元<br/>           ⇒ 本人の力量向上と学校の研修全体の活性化<br/>           ⇒ 教員全体の授業改善への意識が高まり、授業力の向上につながった。</p>                          |          |      |         |          |   |
| 今後の方向性    | <p>・教員養成及び若手育成に実績をあげていることから、成果と課題をふまえ継続していく。</p> <p>・引き続き質の高い教員養成について県教委に要望していく。</p>  |          |      |         |          |   |

| 事業評価部会による評価 |  |
|-------------|--|
| 必要性         | <p>教員の採用が県教委であるため、人材育成は本来県で行う事業だと思う。県教委と連携や住み分けを検討すべき。</p> <p>藤枝の教育の特徴を、教員になる前の塾生に伝えられることは大きな意味があり、本市の小中学校にとって重要であり必要なことである。</p> |
| 有効性         | 子どもを育てる一翼を担う教員の資質向上のため非常に有効で、これからも藤枝型のスタイルを大事にしてほしい。   |
| 公平性         | すべて市費で実施するものの、採用試験に合格した塾生が全員藤枝市に配属されるわけではないのが残念。   |

|           |  |        |      |       |        |   |
|-----------|--|--------|------|-------|--------|---|
| 事業名       | 英語に親しむ Fujieda English Camp の開催  |        | 所管課名 | 教育政策課 | 事業No.  | 7 |
| 事業の概要及び目的 | ALTを活用した課外英語体験活動を実施し、児童・生徒の英語に対する興味や意欲を引き出すとともに、英語運用能力の向上や国際感覚の育成を図った。   |        |      |       |        |   |
| 事業費       | H28 決算   | 583 千円 | 財源内訳 | [市費]  | 411 千円 |   |
|           |  |        |      | [その他] | 172 千円 |   |
| 事業内容      | <p>&lt;第1回「世界の料理体験を通してコミュニケーション！」&gt;</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・実施日：平成28年6月11日(土)</li> <li>・参加者：児童生徒23人(小14人・中9人)、ALT7人</li> <li>・会場：青島北交流センター調理室</li> <li>・内容：グループごとALTの出身国の料理を作り、食事をした。材料購入、調理、食事までをALTと英語のみで活動した。</li> </ul> <p>&lt;第2回「藤枝市内のアクティビティーでコミュニケーション！」&gt;</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・実施日：平成28年10月8日(土)</li> <li>・参加者：児童生徒44人(小32人、中12人)、ALT9人、大学生スタッフ6人</li> <li>・会場：びく石りんご・ブルーベリー狩り園、大久保キャンプ場BBQ</li> <li>・内容：ALTと英語で交流しながら、リンゴ狩り、バーベキューや牛乳パックボートレース遊びなどの活動を行った。</li> </ul> <p>&lt;第3回「動物園と歴史建造物でコミュニケーション！」&gt;</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・実施日：平成29年2月25日(土)</li> <li>・参加者：児童生徒48人(小41人、中7人)、ALT9人 大学生スタッフ6人</li> <li>・会場：日本平動物園、久能山東照宮</li> <li>・内容：日本平動物園でのウォークラリーや久能山東照宮の参拝などをALTとともにいった。</li> </ul> |        |      |       |        |   |
| 成果        | <p>参加児童・生徒への事後アンケートで「今回の活動は満足でしたか？」という質問に対して「とてもそう思う」91.3%、「そう思う」8.7%で合計100%であった。また、「また参加したいですか？」という質問に対しても「とてもそう思う」65.2%、「そう思う」34.8%で合計100%であった。</p> <p>児童生徒にとって満足度の高い活動であり、買い物、料理、食事という日常生活に密着した場面で生きた英語が学べたことは大きな財産となった。</p>  |        |      |       |        |   |
| 今後の方向性    | 参加した児童生徒にとって効果の大きな活動であるという手ごたえを得たので、継続して同様の活動を実施していく。  |        |      |       |        |   |

| 事業評価部会による評価 |  |
|-------------|--|
| 必要性         | <p>新学習指導要領で小学校における英語の教科化や、外国語活動の低学年への移行という、変革に対応する必要な事業である。</p> <p>本来英語は勉強ではなくコミュニケーションツール。英語に「親しむ」という視点で有効であり必要な事業。</p> |
| 有効性         | 先生(ALT)と子どもとの距離が縮まる楽しい事業で、言語の習得以外にも異文化に触れることができ、密着することでわかるこのような体験が大切であり大変有効である。  |
| 公平性         | 対象の全児童・生徒にチラシ配布などで周知はしているものの、参加者だけに費用が使われる。全体の底上げという視点も必要。   |

|           |  |        |      |       |        |   |
|-----------|--|--------|------|-------|--------|---|
| 事業名       | オリジナル学校給食メニューの開発   |        | 所管課名 | 学校給食課 | 事業No.  | 8 |
| 事業の概要及び目的 | 学校給食地産地消推進事業において、地産地消を食育の一環として捉え、推進した。地元産を使用した給食メニューの考案及び提供をするとともに、食育指導の場で県内産・市内産の食材の学習、地産地消の意義などを児童・生徒に伝えた。   |        |      |       |        |   |
| 事業費       | H28 決算   | 455 千円 | 財源内訳 | [市費]  | 420 千円 |   |
|           |  |        |      | [その他] | 35 千円  |   |
| 事業内容      | <p>&lt;地元産を使用した給食メニュー検討会&gt;<br/> 検討会参加者：農業女性の会「クロッシュ」の代表者5人、栄養教諭2人<br/> 検討会を6回行い、6品目を考案した。<br/> ① 藤枝パープルカレー、②ふじえだ和え、③ちくわの藤枝茶揚げ、<br/> ④ 藤色スイートポテトサラダ、⑤ 藤じゃーまんポテト、⑥ 手作り味噌のふじえだ汁</p> <p>&lt;親子料理教室&gt;<br/> 参加者118人（保護者51人、児童67人）、実施回数 6回（8月）<br/> 各会場に生産者を招いて生産方法や生産への思いを聞く地産地消ミニ講座を開催<br/> 藤枝市産の食材を使用（米、椎茸、三つ葉、アスパラ、志太梨、茶、すいか 等）</p> <p>&lt;食育指導&gt;<br/> 学校栄養職員が給食時の学校訪問（336回）や食育授業（354回）で地産地消などの食育指導を実施</p>                    |        |      |       |        |   |
| 成果        | <ul style="list-style-type: none"> <li>・児童・生徒及び保護者に対して、地産地消の意識を高めることができた。</li> <li>・生産者や学校栄養職員の話しを聞くことにより、生産したり、料理を作ってくれたりする人への感謝の気持ちや残さず食べることの必要性を学び、健やかに成長していくための食育に繋げることができた。</li> </ul>  |        |      |       |        |   |
| 今後の方向性    | <p>&lt;地元産を使用した給食メニュー&gt;</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・新給食メニューを食材の旬の時期に合わせて給食で提供していく。</li> <li>・藤枝パープルカレーを給食だけでなく、商業観光課と連携して市内飲食店で販売できるよう取り組んでいく。</li> </ul> <p>&lt;親子料理教室&gt;</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・8月初旬に親子料理教室を開催し、市内生産者による地産地消ミニ講座と料理体験を行い、親子に地産地消の意識高揚を図る。</li> </ul> <p>&lt;食育指導&gt;</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・学校と連携を図りながら給食時学校訪問や食育授業を実施し、食育の重要性を指導していく。</li> </ul> |        |      |       |        |   |

| 事業評価部会による評価 |   |
|-------------|---|
| 必要性         | 食も教育ととらえ、食べることの大切さを教え、地産地消の意識を子どものうちから高めることは必要なことでありこれからも進めてほしい。                          |
| 有効性         | パープルカレーという藤枝らしい大変インパクトがあるメニューができた。今後の展開も期待され、このような取り組みは、食に対して、また郷土に愛着を持たせるという意味でも大変有効である。 |
| 公平性         | 学校給食を通じた事業であるため公平である。   |
|             | 気に入ったメニューのレシピを公開しホームページに掲載するなど、保護者をはじめ市民の人にも関心を持たせる工夫があるとよい。                              |

|           |   |          |      |         |          |   |
|-----------|---|----------|------|---------|----------|---|
| 事業名       | サイエンスキッズの育成   |          | 所管課名 | 生涯学習課   | 事業No.    | 9 |
| 事業の概要及び目的 | 急速に変化する社会環境に柔軟に対応していく力を育成するため、子どもたちが科学に触れ、科学に関心を持つことができるような機会を設けることを目的として、JAXAの協力を得て宇宙関連のイベントや科学教室等を開催した。   |          |      |         |          |   |
| 事業費       | H28 決算  | 5,805 千円 | 財源内訳 | [市費]    | 1,805 千円 |   |
|           |   |          |      | [国県補助金] | 4,000 千円 |   |
| 事業内容      | <p>&lt;フジエダ☆宇宙(コスモ)キッズラボ&gt;</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・開催日：7/30(土)～31(日)</li> <li>・内容：星出宇宙飛行士講演会・移動プラネタリウム・デジタルアクリウム・宇宙服試着・宇宙映像コーナー・スタンプラリー等</li> <li>・来場者数：1,850人</li> </ul> <p>&lt;コズミックカレッジ&gt; (小学3・4年生を対象)</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・開催日：①7/31(日), ②8/21(日), ③10/2(日), ④12/18(日), ⑤2/19(日) 全5回</li> <li>・内容：熱気球づくり、動く宇宙生物づくり等、JAXAのキットを使った科学教室</li> <li>・参加者数：全5回延166人</li> </ul> <p>&lt;サイエンスショー&gt;</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・開催日：2/19(日) 11:00～、14:00～ 2回</li> <li>・内容：お笑いコンビ「ホルホルズ」の笑ってためになるサイエンスショーの開催</li> <li>・来場者数：全2回延833人</li> </ul> <p>&lt;コンサート&gt;</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・開催日：1/14(土) 14:30～</li> <li>・内容：音のサイエンス! ストリンググラフィ・アンサンブルコンサートの開催</li> <li>・来場者数：322人</li> </ul> |          |      |         |          |   |
| 成果        | 多くの子どもたちが目を輝かせて参加し、科学や理科に関心を持つ子どものすそ野を広げることができた。  |          |      |         |          |   |
| 今後の方向性    | <ul style="list-style-type: none"> <li>・今年度、JAXAと連携協定を締結し、本事業の更なる推進を図るため、JAXA職員による小中学校での授業など、新規事業にも取り組んでいく。</li> <li>・どちらも「科学」をテーマにした事業だが、本事業は体感イベントが中心で、対象年齢の間口が広い一方、事業1「ふじえだロボットアカデミー開催」はより創造力や問題解決力の高まりに視点を置く、小中学生が対象の講座が中心である。平成29年度以降も講座内容を精査しつつ、「科学」を多角的に捉え、継続実施していく</li> </ul>   |          |      |         |          |   |

| 事業評価部会による評価 |  |
|-------------|--|
| 必要性         | 宇宙開発という未知なる可能性に挑む、夢のある事業であり、子どもたちの将来の希望を後押しする事業であり、十分必要性が感じられる。  |
| 有効性         | 間口が広く、多くの子どもたちに科学に興味を持たせるという、きっかけとしては大変有効である。<br>科学館のような常設の展示場が無い本市にとって、学校では学ぶことのできないことを体感し学ぶことのできる良いイベント。 |
| 公平性         | JAXA職員による小中学校での授業ならイベントに足を運ぶことのできない子どもも宇宙科学に触れることができ、公平性は保てるが、教員が多忙感を持たないように進めてほしい。                        |

| 事業名           | 地域の文化財を活用した<br>科学教育の推進  |        | 所管課名 | 生涯学習課   | 事業No.  | 10 |
|---------------|---|--------|------|---------|--------|----|
| 事業の概要<br>及び目的 | <p>県無形民俗文化財である「朝比奈大龍勢」について、静岡理工科大学の協力のもと工学的見地から研究し、長年の伝統や経験で培われた技術を解析した。</p> <p>併せて、その成果等を将来を担う子どもたちに対して出前授業などで実施し、理科教育や地域文化への理解を深め、伝統や文化を次代につなげる事業を実施した。</p>   |        |      |         |        |    |
| 事業費           | H28 決算  | 496 千円 | 財源内訳 | [市費]    | 0 千円   |    |
|               |   |        |      | [国県補助金] | 496 千円 |    |
| 事業内容          | <p>&lt;龍勢の仕組み・飛翔軌道や姿勢運動等の解析&gt;</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・吹き筒推力測定：9 / 25 (日)、飛翔計測：10 / 15 (土)</li> </ul> <p>&lt;あさひなっ子ロケット工学講演会&gt;</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・9 / 6 (火) 朝比奈第一小学校3年生から6年生 参加者32人</li> <li>※講演会終了後に全児童で龍勢(傘の部分)を作成。10/15 龍勢当日に打ち上げ大成功。</li> </ul> <p>&lt;ミニ龍勢ロケットづくり教室&gt;</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・10 / 8 (土) 市内の小学4年生から6年生 参加者33人</li> <li>・龍勢の飛ぶ仕組みを学び、自分のミニ龍勢をつくって実際に飛ばした</li> </ul> <p>&lt;研究成果報告会&gt;</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・朝比奈龍勢保存会：11 / 19 (土)、朝比奈第一小学校：12 / 14 (水)</li> </ul> |        |      |         |        |    |
| 成果            | <p>本事業は、朝比奈地域・朝比奈第一小学校・静岡理工科大学・藤枝市が連携して実施した。身近な事物を取り上げた科学教育として、学術的な効果の他、自らの生活と地域文化への興味と理解をより効果的に益すことができ、地域の継承者の育成にも繋がった。また、研究成果として、吹き筒の構成の仕方や尾の取り付け方など、保存会がこれまでの経験を通して得てきた知識が、今回の計測とその分析の結果に通じるものが多いことが分かった。</p>  |        |      |         |        |    |
| 今後の方向性        | <ul style="list-style-type: none"> <li>・ミニ龍勢ロケットづくり教室や事業成果の発表会の開催</li> <li>・静岡理工科大学と連携協定を締結し、新たな文化と科学を融合した事業も含めた科学教育の推進を図る。(平成30年度予定)</li> </ul>  |        |      |         |        |    |

| 事業評価部会による評価 |   |
|-------------|---|
| 必要性         | 科学を用いて論理的に考えることは、これからの時代に子どもたちが生き抜く糧になる事業であり、十分必要性が感じられる。   |
| 有効性         | <p>地域に古くからある伝統と現代科学という一見ミスマッチな組み合わせが面白く、科学への切り口として良い素材である。</p> <p>子どもからお年寄りまでをも巻き込み、科学への興味の涵養だけでなく世代間交流としても有効と思われる。</p> |
| 公平性         | 朝比奈大龍勢だけに特化すると、対象が限られてしまい、他地区との公平性が保てない。文化と科学の取り合わせが他にないか探る必要がある。   |



|           |   |          |      |         |          |    |
|-----------|---|----------|------|---------|----------|----|
| 事業名       | 子ども読書活動推進事業   |          | 所管課名 | 図書課     | 事業No.    | 11 |
| 事業の概要及び目的 | 本や絵本に子どもの頃から触れ合うことは、言葉を学び、感性を磨き、表現力を高め、想像力を豊かにするなど、情操教育に大きな影響を与える大変重要な機会である。平成28年3月に策定された「藤枝市子ども読書活動推進計画（第三次）」に基づき、子どもの読書活動が自主的に行うことができるよう、読書環境の整備や読書機会の提供、読書活動等を積極的に広報し啓発するための事業を実施した。   |          |      |         |          |    |
| 事業費       | H28 決算  | 3,382 千円 | 財源内訳 | 〔市費〕    | 3,382 千円 |    |
|           |   |          |      | 〔国県補助金〕 | 0 千円     |    |
| 事業内容      | <p>&lt;ブックスタート事業&gt; 1,106冊の絵本を配布（前年：1,098冊）</p> <p>&lt;移動図書館車の運行&gt; 貸出冊数：17,209冊（前年：14,211冊）</p> <p>&lt;子ども読書活動推進講演会&gt; 脳科学者の池谷裕二氏を招き、8/7に駅南図書館で開催</p> <p>&lt;タブレットでオリジナル絵本を作ろう&gt; 10/29・岡出山図書館</p> <p>&lt;オリジナル読書ノートを作ろう！&gt; 11/19・岡部図書館、11/27・駅南図書館</p> <p>&lt;第9回よむゾーくん大賞の実施&gt; 応募作品1,727点</p> |          |      |         |          |    |
| 成果        | <ul style="list-style-type: none"> <li>・「ブックスタート事業」については、6ヶ月健診時に直接親子に本を手渡すことで、子どもの読書活動の重要性と市立図書館の活用方法について周知が図れた。</li> <li>・「移動図書館車の運行」は、放課後児童クラブを支援するとともに、児童が身近で読書に親しむ環境づくりを行った。</li> <li>・「子ども読書活動推進講演会」は、「脳を知って、脳を活かす」という演題の講演会に104人が図書館へ訪れた。</li> </ul>  |          |      |         |          |    |
| 今後の方向性    | <ul style="list-style-type: none"> <li>・子ども向けを中心に図書館への来訪や利活用を促すための講座を開講。</li> <li>・実施した事業の結果を考慮し、「よむゾーくん大賞」をはじめとして、多くの利用者の参加が見込める事業を展開していく。</li> </ul>  |          |      |         |          |    |

| 事業評価部会による評価 |   |
|-------------|---|
| 必要性         | 今後の図書館利用者を増やし、子どもが本好きになるきっかけとなる事業であり、活字離れが叫ばれる中、必要な事業である。                   |
| 有効性         | 大きな図書館に並ぶ本よりも、移動図書館で手にした一冊は輝いて見える。お気に入りの本に出会う可能性のある、有効性のある事業である。            |
|             | 児童クラブを対象とする以外にも、学校や老人施設などの多くの借り手の見込めるところを運行ルートに加える方が、利活用を促すという点において有効ではないか。 |
| 公平性         | 誰にも公平に本を渡せるブックスタートはとても良い事業であり、セカンドブックにも期待したい。                               |

## 教育委員の活動状況報告

## 教育委員の活動状況報告

### 1 教育委員会の会議

藤枝市教育委員会では、藤枝市教育委員会会議規則（昭和 31 年教育委員会規則第 2 号）に基づき、月 1 回の定例会と、必要に応じ臨時会を開催しています。

教育委員会の所掌事務は、「当該地方公共団体が処理する教育に関する事務」（法第 21 条）と定められており、その範囲は広範であるため一部の事務は「教育委員会の権限の一部を教育長に委任する規則」により教育長に委任されています。したがって、定例会では教育長に委任できない事務について審議をしています。

また、平成 27 年度から「地方教育行政の組織及び運営に関する法律の一部を改正する法律」に基づき、総合教育会議を開催し、市長と教育委員会の連携をさらに強固にしています。平成 28 年度には、3 回の会議が開催されました。

平成 28 年度の定例会及び臨時会での審議内容等は以下のとおりです。

|           |      |           |      |
|-----------|------|-----------|------|
| 【定例会開催回数】 | 12 回 | 【臨時会開催回数】 | 3 回  |
| 【附議件数】    | 26 件 | 【事業報告件数】  | 73 件 |

#### 【附議の内容】

| No. | 案 件                      | 件数 |
|-----|--------------------------|----|
| 1   | 教育委員会規則等を制定し、又は改廃すること    | 10 |
| 2   | 議決を要する議案について市長に意見を申し出ること | 0  |
| 3   | 附属機関の委員を任命し、又は委嘱すること     | 7  |
| 4   | 職員の人事に関すること              | 2  |
| 5   | 教育に関する一般方針を定めること         | 7  |
| 6   | 文化財の指定に関すること             | 0  |
|     | 計                        | 26 |

## 2 その他の教育委員の活動

教育委員は教育行政の更なる推進と円滑なる教育委員会の運営を図るため、委員会における審議とは別に静岡県市町教育委員会連絡協議会が主催する研修会などへの参加や市内小中学校の訪問をはじめ市及び教育委員会各課が主催する行事等の現場視察等を実施し、本市教育委員会の活性化を図るとともに教育委員としての資質の向上や自己研鑽にも務めています。

平成28年度活動状況は、以下のとおりです。

### 【教育委員の活動内容】

| 分類      | 案 件   |
|---------|---|
| 1 調査・研究 | (1) 藤枝市校長会夏季研修会への参加<br>(2) 指定校の研究発表会への参加<br>(3) 静岡県市町教育委員会連絡協議会が主催する研修会への参加 |
| 2 現場視察  | (1) 市内小中学校訪問<br>(2) 各地区の「ふれあいまつり」の視察<br>(3) 市及び教育委員会各課が主催する各種行事へ参加          |

平成29年度  
藤枝市教育委員会事業評価報告書

平成29年11月  
藤枝市教育委員会